

小杉 武久 Kosugi Takehisa

1938 年東京生まれ。

1960 年に日本で最初の即興演奏集団「グループ・音楽」を結成。1960 年代初め、イベント作品が「フルクサス」によって欧米に紹介される。1969 年「タージ・マハル旅行団」を結成し、国内外の様々な場所で演奏。1977 年のアメリカ移住以来、「マース・カニングハム舞踊団」の音楽家として活動。1995 年から 2011 年まで同舞踊団の音楽監督を務める。また、個人としても世界各地の芸術祭、コンサート、展覧会に数多く参加している。

和泉 希洋志 Izumi Kiyoshi

日常生活にある五感をテーマに、既存の音やイメージなどを自在にリミックスし作品を編み上げるアーティスト。1990 年に初個展、以後数々の展覧会やパフォーマンスに参加。一方で音響・音楽に関わる活動を行い、多くの国内外の音楽家と共演。絵画、彫刻、CG やビデオ映像、サウンドを自在に駆使するマルチアーティストであり、“SOMA”を拠点に食の提示、ギャラリーの運営、2015 年には音楽レーベル bitSOMA を始動、本人名義では 11 年ぶりにアルバムをリリース予定。

小杉武久・和泉希洋志 コンサート

LEMP

出演：小杉武久、和泉希洋志

協力：川崎弘二、高嶋清俊、ニジジマ・アツシ、村井啓哲、井上音響企画、

HEAR sound art library

日時：2015 年 11 月 8 日(日) 午後 3 時～4 時

場所：神奈川県立近代美術館 鎌倉 彫刻室

主催：神奈川県立近代美術館

〒248-0005 鎌倉市雪ノ下 2-1-53 Tel. 0467-22-5000

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

小杉武久・和泉希洋志 コンサート

LEMP

神奈川県立近代美術館 鎌倉

音のラディカル・ピクニック

小杉武久さんの音楽として結果する行為は、いつでも隅から隅まで自由である。無垢の自由である。

こだわりを捨て、身軽になり、しかし、隙はどこにもない。これほどまでに苛烈に自由な音はあまり類例がないように思う。

事実、ニューヨークでの60年代の伝説のイベントの数々も、70年代のタージ・マハル旅行団という奔放このうえない音楽ユニットも、前代未聞(まさしく「未聞」)であり、そうありたいと願う小杉武久の強烈な意志の産物であった。

しかし、小杉は「小杉武久」に易々と収斂されることを拒もうとしている。音のなりゆきにまかせて、どこか知らない場所に出かけたいといつでも願っているのだ。

わたしは20世紀初めからジョン・ケージを経由して受け継がれるダダイストの面目をそこに認める。

2002年、鎌倉館新館での小杉さんの大がかりなサウンドインスタレーション「WAVES」は忘れがたい刻印を当館に刻んだ。そこにはラディカルな音のピクニックが現出していた。

今回は鎌倉館旧館がピクニックの場所。タイトルは「LEMP」。鎌倉の古称が「鎌府(れんぶ)」であったこととLightning Electromagnetic Pulse(雷電磁パルス)の略称LEMPが掛詞になっている。激烈でユーモラスでもあるラディカルさに、ときに溜飲を下げ、ときに耐え、ときに歓喜して、大いに楽しみたい。

2015年 11月

神奈川県立近代美術館長

水沢 勉

Program

1. 和泉希洋志 / Heteromonic (2015) *初演
演奏:和泉希洋志、小杉武久
2. 小杉武久 / (violin impro.) (2015)
演奏:小杉武久
3. 小杉武久 / Mano Dharma, electronic (1967-)
演奏:和泉希洋志、小杉武久
4. 和泉希洋志 / Muralteron (2015)
演奏:和泉希洋志
5. 小杉武久 / South e. v. #2 (1962/2014)
演奏:和泉希洋志、小杉武久
6. 小杉武久 / Op. Music (2001)
演奏:和泉希洋志、小杉武久

・演奏曲目等は変更される場合があります。